

エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

ロザリオの聖母修道院

ロザリオの聖母修道院では、2月下旬に、広報委員会から示された呼びかけ、会員日より「エコロジカルな回心」の執筆についてのプリントを全員で読んだ。共同体、または個人で取り組んでいること、今後取り組みたいことを各自で考え、無記名で記入することにした。皆が手に触れ、目につきやすい食堂入口に、参考資料をファイルにしたものを置き、また、2008年12月7日朝日新聞創刊130周年記念企画として掲載された「エコかるた」を掲示した。

3月9日、共同体で集まり、それぞれが提出したエコロジカルな取り組みについて共有した。

1. 「エコかるた」の中から、これと思うものに投票。(票数が多いものを紹介)

- 「あ」明日もねいつも一緒のマイバッグ
- 「さ」皿洗う前にひと手間汚れ拭く
- 「え」エレベーターやめて歩くもエコのうち
- 「て」テストの点悪いが裏紙役に立つ
- 「な」夏の日は葉っぱのカーテン涼しそう



2. 日常の創意工夫の中から

- ①裏紙を利用する。(メモ、封筒など)
- ②ドレッシング、塩など少し足りないくらいに使用する。
- ③皿についたドレッシングやカレーのルーを最後にパン、ご飯、野菜などで拭きとる。
- ④茶がら、野菜、果物の皮、生花の屑、落ち葉などで堆肥づくり

3. 回勅「ラウダート・シ」公布5周年にあたって 巻頭特集より感銘をうけたこと

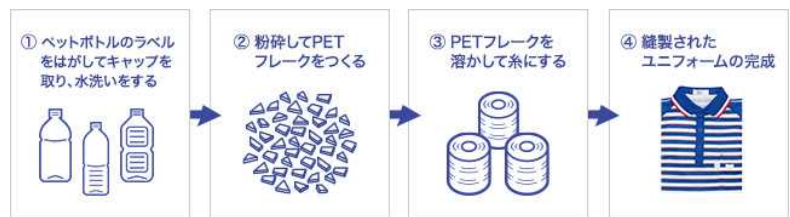
- ①わたしたちが実践できることの一つとして、食べ物や水の無駄を減らすこと。
- ②もし、わたしたちが、畏敬と驚嘆の念をもたずに自然や環境に向かうなら、世界との関わりにおいて友愛や美のことばを口にしなくなるなら、私たちの態度は、限度を設けることなく当面の必要を満たそうとする支配者、消費者、冷酷な搾取者になるでしょう。これと対照的に、もし存在するすべてのものと密接に結ばれていると感じるなら、節制と気遣いがおのずと湧き出てくるでしょう。

4. 今後、共同体で取り組みたいこと

- ①居室の電気をつけたまま部屋を不在にしない。
- ②食後の皿洗いの前のひと工夫
- ③湯、水、洗剤、ペーパータオル、トイレトペーパー、電気など無駄遣いしない。
- ④食べ物を大切にいただく。

共同体でこれらの事を共有し、当修道院での取り組みが始まった。それから、1か月以上経つが確実に成果が感じられるようになった。食器洗いの際、食器が綺麗になっていることや、不在時の居室電気のつけっ放しが減るなど、一人一人が意識していることが伺える。また、エコかるたは、各階に掲示しているが、エコへの意識を高めることに一役買っているようだ。エコかるたの一部分に、「私にもできる」と思ったエコ、いくつありますか。たとえ一つずつでも、みんなでやればすごい数に。一緒に、どんどん実行していきませんか。」とある。どんなに小さなことでも、行動することが大切であると勇気づけられて、「よし！やってみよう！」という気持ちになる。

共同体では、日常の会話の中でもエコ意識の高まりが感じられるようになった。姉妹の分かち合いによると、ある姉妹が、嬉しそうな表情で新聞の切り抜きを見せてくれた。それは、佐川急便の取り組みに関することだったという。青が基調で横縞の



ユニフォームを、2002年から廃ペットボトルを原料にした再生ポリエステル製に替えたとのこと。佐川急便というと、身近なところでお世話になっていて、何だか嬉しくなり、「へえ〜すごいね！」と話し合っていたという。すると、そこにたまたま佐川急便のお兄さんが姿を見せた。そこで、「ユニフォームは、ペットボトルでできているんですってね！」と話しかけると、そのお兄さんは、「そうなんですよ！あのトラックも廃材を用いたものなんですよ！」と嬉しそうに教えてくれたが、その表情がとても生き生きとして印象的で、自分たちも嬉しくなったという。エコへの関心を向けることで、今まで気がつかなかったことに気づかされるようになってきた。いかにこれまで無関心だったかと反省することも多い。しかし、今気付くことができたことに感謝し、これから小さな取り組みを続けていきたいと心を新たにしている。

教皇様は、利便性ばかりを追求する消費型の生活に慣れたわたしたちが、貧しい人々がえられるはずだった恵みをどれほど掠め取っているのか、反省するよう呼びかけている